

中学校理科教育 実技・理論 研修会 終了報告

テーマ	ビーチコーミングを通して見る北海道の海	
日時	令和 元年 8月 5日(月)	
会場	石狩中学校及び古潭海岸	
講師	<p style="text-align: center;">圓谷 昂史 氏</p> <p style="text-align: center;">(肩書:)北海道博物館 研究職員</p>	
参加者	12名	
研修会 の 様子		<p>9:00より石狩中学校理科室にて研修開始。 講師より、ビーチコーミングについての説明。また、学校教育の目線から、学校現場でどのように活用していくことができるか、という話を頂きました。</p>
		<p>古潭の浜まで、車で移動。石狩中学校より25分ほどの場所でした。古潭会館の駐車場を借り、そこでどのようなものがビーチコーミングで見つけることができるか、事前学習を行いました。</p>
		<p>約200mほどの海岸には、大量の漂着物が落ちていました。海外製の製品、主にロシア産のものや中国産のものが多かったです。ビーチグラスやメノウ、石炭なども採取することが出来ました。あまりの漂着物の多さに、中々先に進まず、あっという間に1時間が過ぎてしまいました。</p>
		<p>採取した漂着物もみんなで並べ、報告会をしました。 鳥の骨が落ちていたり、アナゴ漁につかう道具などが見つかりました。また、過酸化水素水のボトル(韓国製)のものも見つかり、海を渡って、様々なものが漂着していることが分かりました。</p>
		<p>最後に全員で記念撮影を。漂着物は各自持ち帰り、これからの授業の中で取り入れていくようです。</p>

